

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372100275		
法人名	社会福祉法人 ことぶき会		
事業所名	ぐるーぷホームふるさと		
所在地	岡山市北区御津紙工1410番地		
自己評価作成日	平成23年12月3日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372100275&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・それぞれの利用者の個性を大切に、生活リハビリの中で「これは自分出来る」と生き甲斐に繋がる事で自己主張が出来るようにしている。

・ご家族の希望である「車椅子で寝たきりの生活にして欲しくない」を全スタッフが共有し対応する。

・田園風景に囲まれた屋外でのティータイム、散歩、など積極的に外出をして、地域の方々とも交流を図る。又、地域の方々にも地域運営推進会議にも参加して頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年5月開設して以来、同じ管理者の下で9年目の歳月を経ているが、今回訪問させてもらって感じた事は、今まで積み重ねてきた殻を脱皮したのではないかと思った。8年のこのホームの生い立ちの中で、特養ホームを持つ母体法人の傘下でのグループホームとしての存在、この地域性との関わり方、利用者のこのホームでの生活と家族の関わり方、そして職員達の活動等が絡み合って利用者の生活を支えてきた中で、ずっと続いてきたことは、利用者がリビングルームに集まって楽しそうに生活しており、私達を迎えてくれる気持ちや態度は以前と何も変わりはない。気持ちの良い雰囲気がある。この中で一番変わってきたなあと思う事は、職員が利用者や家族の真の心を掴んでいる事ではないかと思える事である。利用者の気持ちをしっかり把握しようとしているマネジメントが実現することにより、職員と利用者の表情と活力がすっかり変わってきたと思える事である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	情報公開し、毎月行っている。 スタッフ会議、また、年2回の自己評価にて理解度の把握を行っている。	「古き人の思いに耳を傾け、瑠璃色の輝く我が家、最良と思える人生、共に歩む」各句の頭の音で、“ふるさと”での利用者の生活感を物語っている。9年目を歩んでいる職員が一人ひとりの行動をその都度振り返って自己評価をして更なる成長するために各自が自己研鑽に努めている。	理念とか目標の達成を評価するについては、表示した言葉だけに終わらず、今後はその達成度を評価する基準は下記の自己評価の全項目を総合した達成度合いの結果の評価であるという認識で見てもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居希望のご家族、老人クラブ、民生委員等が気軽に来られ、さり気なく利用者の方と交流が来ている。	老人クラブや民生委員の方々がホームの見学に来るようになった。夏祭り、運動会、花見等地域を合同で法人が行う行事にも多くの地域の人々が参加して、顔馴染みになっているので、日頃から挨拶や声掛けをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	部落内散歩を行い、季節に応じた地域の方との会話が成り立っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では地域の駐在所のお巡りさんも気軽に参加して頂き、利用者の状態を把握して下さる。	委員として、利用者(3名)と家族代表(3名)が出席し、町内会長や岡山市御津支所や包括支援センターの職員も参加して、活発な運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。駐在所の警察官も出席する事も有り、幅広く意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センター、近隣の支援事業所、同業種グループホームとも常に関わりがあり、お互い情報を確保している。	母体法人が特養ホームや在宅介護支援事業を古くから展開しており、そこにこのホームが開設してから9年間経過しているため、岡山市合併前から御津の区域では行政との関連も強く、現在は岡山市や包括支援センター等の行政との関わりをしっかりと持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ共通認識の下、全く拘束行っていない。	拘束や虐待については常日頃から気を配り、利用者の健康と安全確保との間で常に一つひとつの行動や関わり方について振りかえる習慣が出来ている。職員が体験している行動の具体的な事例を基に職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ会議後の勉強会を全スタッフが自覚し、ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修に参加し、それをスタッフ全体で共有し、万が一に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明時、家の方と管理者で行っていたが、一名スタッフが入り、モレ等ないように安心感を持って頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の広報誌でも伝えている。情報公表もしており、見学希望者へも説明している。	家族はホームへの訪問時、運営推進会議等で意見交換する機会は多く持っている。ホームでの生活の様子は“ふるさとだより”を発行し、多くの写真を中心にコメント入りで12月現在で103号を発行し、家族からも喜ばれている。これらを通して家族から意見要望も多く出て運営にも反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて共有し、できることは即実行へ移している。	利用者の担当制を作り、半年から1年位の周期で利用者の全てを把握したり、身の回りの生活を支援する。職員ミーティングでは打合せの日に毎月テーマを設け勉強をする。その資料作成や話し合いの担当制も敷いており、職員全員がホームの運営に参加している。又、年2回自己評価制度があり、自らの目標やアピールを主張する機会にも恵まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価表を元に管理者が評価し、さらに全体会議の場(宇甘川荘)でも評価し、公平な評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育マニュアルに添い、研修も受けている。スタッフ会議や日常の気付きも本人に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報を連絡し合っている。 運営推進会議等も参加し合う場合も検討中である。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と現場スタッフがインテークを行い、ご本人のADL面、思いを把握している。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク面接時、入居契約時に生活歴や思いなど十分傾聴している。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接時、入居決定時の情報提供表等あらゆる面を考慮し、プラン立案を行う。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣を把握し、大切にしている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、スタッフ共に目線を同じにし、垣根のないケアに努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、出来るだけ住み慣れた所に、ふるさと巡りを目指している。	ホームに入所してから利用者同士が仲良く暮らしている環境がにじみ出ている。新しい人が入所すると、職員が会話の仲立ちをしたり、共通の話題になる人同士の交わりも作るが、利用者同士の相互扶助のほのぼのとした光景を見る事が出来る。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も相互扶助が出来、ほのぼのする光景が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居契約時において、先々の重度化した場合もフォローアップできるシステムを作っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格を考慮し、場面作りを行っている。	本人や家族の気持を知る、あるいは心の変化に気付く、心身の生活機能の把握等の重点的な業務を遂行するために平成22年度から職員の配置を7人体制に増やし、日中は3人対応で買物や外出、周辺の散歩等の支援を積極的に行うようにしてきた。そこで知り得た情報は生活記録や介護日誌に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク面接時詳細に把握し、できるだけ環境づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の生活スタイルを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で本人の思いを把握し、本人に合った環境づくりを心掛けている。	利用者の情報を毎日の記録に残しているが、それを利用者担当職員が1ヶ月毎にまとめ、利用者の“今の情報”の密度と精度を高めて、アセスメントやプランに生かしている。特記的な事は、家族にも伝え、利用者を支援する効果的なマネージメントが成長している事が分かった。	日常の記録類とケアプランとの結び付きのマネージメントは素晴らしいと思えるが、利用者を支援するためのアセスメント方式と利用者の生活機能を維持又は向上する為のプランをもう少し具体的に進められるともっと良くなると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族面会時やスタッフ会議や毎日のケアの中での気付きは見逃さなく、ケアの向上につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定時、随時、利用者に関わる良い事は、即ケアに生かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設等からの招待で行事にさんかしたり、毎月のボランティア、不定期ボランティア、実習生等、様々な地域交流が来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なかかりつけ医の受診を行い、主治医と緊急時の対応で、内服状況等も適宜伝える。家族の要望等も考慮している。	協力医が主体となって利用者の健康管理や日常の治療をしてくれている。特別な医療診療には家族が対応するが、日常の診察は協力医が当たってくれるので安心で、終末医療も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所時に医療との連携を説明し、医療との関わりを説明し納得して頂く。 週1回は、看護職が個々に話を聞く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時に内科又は外科的入院についての説明を交わしている。 病院関係にもこちらからも連絡を入れて、状況の確認を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に将来的な多方面の説明を行う。家族の希望をなるべく尊重した対応をする。	家族の希望や協力があれば、協力医と職員と共に最期までこのホームで暮らす事は可能である。過去においても実績もある。利用者もこのホームで100歳まで生きたいと言っているし、管理者もどんなに重症化しても本人や家族の希望があれば特養ホームに移す事はしないと心強い言葉を言ってくれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自で勉強会をしたり、同一母体法人での合同勉強、又、各機関での研修等に参加して、その内容を他職員へ報告を行う等している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年各2回、地域、法人全体、ふるさと独自で実地訓練を行う。(全員参加で) その時に消防署も参加し、研修等も同時に行う。	母体法人の特養ホームの消防計画の基に訓練の実施をしており、全体の消防訓練は地域の人達と合同で行っているが、ホーム独自でも消防や避難訓練もしている。消防関係者も協力指導してくれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性、生活歴、又、人生の積み重ねてきたその人自身を大切にしたい生活が行えるようにしている。	利用者のプライバシー保護の最大の行為は排泄時や入浴時にある。トイレは全て居室に設置しており、他人との関わりはないが、排泄時の職員の対応の仕方についてはミーティングでも話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や個性、性格を理解し、ゆっくりと自己表現が出来るように促したり、飲み込んだ言葉の思いを果たす。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを守り、声掛けを行ったり、自主的に利用者同士の会話が出来たり、思い思いの時間が過ごせるように出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類、物品を用意し、自分なりに服を選んで着用して頂く。 特に理容、身だしなみには気を付けて頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ずしも全員が同時間でないこともある。朝が早い方、ゆっくりな方に合わせて温かいものを出したりする。 利用者にしてできる盛り付け等して頂く。	食事の調理は全てホームの厨房で行うので、買物から調理、盛り付け等に利用者の参加もある。利用者が困っている食卓テーブルでも調理する過程から発する音や臭いが漂い、皆で食べる食事の時間は楽しい。出来る限り一人ひとりが自分の能力で食事をする事も尊重している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が食材量を準備して頂き、独自のメニュー、利用者の希望を聞く等して作る。摂取量の少ない方、偏りのある方には摂取量を作って確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後フロアの洗面台又は、自室洗面台にて全員行えるようにし、その都度十分な手洗いも行う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中1人以外はトイレ使用である。各部屋のトイレ内には給湯があり、その都度温かいタオルにて清拭ができています。	自分の居室にトイレや洗面所があるので、便器に座って排泄する事が基本である。移動が困難な人でも2人の職員の介助でトイレに行く人も居る。排泄の状況は記録されており、そのパターンも生かして支援できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食、水分摂取表を個人別にチェックし、十分な摂取量と散歩、睡眠、落ち着いた生活を保っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はゆったり、ゆっくり、平生聞けない昔話など聞ける機会でもある。その都度バイタルチェックを参考に安全に努めている。	週3回は入浴するよう支援している。普通のバスタブなので、その人の能力によっては2人の職員で介助もしている。入浴拒否したり、汚れたりすると、その都度入浴をすすめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の生活パターンに基づき、一日の流れが安心安全に過ごせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスのないよう二重、三重のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、洗濯物干し、たたみ等利用者同士の声掛け等自発的に出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域内の散歩、地元のイベントの招待や活発な参加が出来る。 (21・目標計画達成)	現在は、利用者の高齢(7人が大正生まれ)になっていたり、車椅子での生活者はいるが、利用者が車椅子を押して散歩に出掛けている。相互扶助の気持はホームでの生活全般に行き渡っている。家族も参加して小旅行も計画している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小グループ単位で買物、食事を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線を引いている方は県外の娘、息子寄り「電話の交流、他の方は電話をつなぎ交流。絵手紙が届く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の外へは季節の花や編み掛けの手工芸があったり、利用者同士お喋りする空間がある。	このホームの共有空間の造りは良く、木造建築物で中央にはウッドデッキがあり、建物内のリビングルームや畳敷きの部屋との続きの空間で、全体が一つの生活空間として機能しており、利用者は馴染んでいる。利用者と職員の人間の交わりも暖かい空気が流れており、ハードな面にも溶け込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日その時の気分で隣の部屋の方を尋ねたり、玄関先の椅子、テーブルでお茶を楽しむ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や主人と過したアルバム、孫やひ孫の写真集等手を伸ばせばそこへある。	自作の絵を居室の中や廊下の入口付近に貼ってある。家族からも「○○子のアルバム」と言う題字がつけられて机の上においてくれている。居室のある周り廊下の1ヶ所にホームの誕生時からの写真のアルバムのコーナーがある。家族と利用者の絆の表現が輝いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアで過ごしていてもトイレの声掛けにて自分の部屋へ間違えなく帰る事が出来る。		